合成洗剤を追放しよう!!

生命のふるさと
海を守るために

拓水

6月号　No.321　一部　10円
（会員の購読料は指導事業経費より支払されています）
発行所　兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
神戸市兵庫区中之島2の2の1
TEL　681－6954～7
発行人　兵庫県漁業協同組合連合会

系統組織の整備充実を
会長に山田岸松氏を再選
県漁連総会

県漁連をはじめ、本県各系統団体は去る五月期、水産会館等で一斉に通常総会を開催、昭和五十七年度事業報告、収支予算、昭和五十八年度事業計画、収支予算等々提出議案の総てを原案通り承認決定した。また県漁連及び県共済組合では任期満了に伴なう役員改選が行なわれ、すでに推せん会議で推せんされている役員候補者が各々選任された。とくに今回の選挙では、三漁連合併以来、県漁連事業活動の実務推進役として又、本県漁協系統の代表団体として、山田岸松会長の女房役として活躍してきた塩谷健次郎専務理事が、健康上の理由で任期満了を期に辞任を表明、その後任人事が最大の焦点となっていた。

専務人事については、決算総会後の五月三十日、県漁連の臨時総会で現職の県水産課長の青正輔氏を役員に推せんすることが初めて公表され、去る六月十六日の臨時総会でこれを全会一致承認した。又、同氏の専務理事就任については、同日臨時総会に引続き開催された県漁連理事会で正式決定をみた。

公定歩合の引下げ、石油価格の安定等、景気回復の兆しはあるものの、現下の漁業界は依然として水産物の消費、流通動向が流動的で漁業経営の不安要因は大きく、漁協系統組織の整備充実、強化が強く要請されるなか、県漁連は、山田岸松会長、西上重弌、酒部竜三、炭谷恒男（新）各副会長に青正輔専務理事を加えた新執行体制で活動を開始。又、新執行体制の出発を期に職員の大巾な人事異動も行なわれ、漁協あるいは漁業者と密着した漁連事業のあり方を総ての職員に認識させ、一方では本県漁協系統の代表団体としての使命を果すための体制がここに確立した。

時代のすう勢で旧態然とした漁協組織にも、新たな展開が必要となってきたとき、今期装いを新たに船出した漁連丸は、漁業社会全体の近代化に向けて厳しい試練に立ち向かおうとしているが、安全航海のパスポートは〃対話と相互理解〃〃信頼と勇気そして冷静な判断〃を誰もが自覚することにあると思われる。

漁協系統組織の強化を訴える山田会長

専務理事に青氏を選任

県漁連通常総会では任期満了に伴なう役員改選が行なわれた。

選任された理事、監事の各氏は次のとおり。

漁業をとりまく厳しい諸情勢下、本県水産業の振興と漁協系統発展のために各氏に大きな期待がかけられている。

（敬称略）

会長理事　山田　岸松
副会長理事　西上　重弌
同　酒部　龍三
同　炭谷　恒男
専務理事　青　正輔
理事　隅谷　長夫
同　柳田　弦市
同　清水　一男
同　桂　一心
同　中川　三二
同　中来田　實
同　森　吉一
同　西尾　敏夫
同　嵐　軍次
同　堀　實
同　村瀬　和夫
同　木下　清
代表監事　田中　鶴雄
監事　西岡　美彰
同　岩佐　十郎

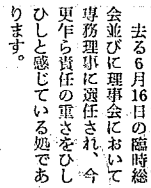
× ×

会長に日野氏
全かん水

（社）全国かん水養魚協会は、5月30日兵庫県水産会館で第18回通常総会を開き、58年度事業計画及び予算を原案通り承認した。又、任期満了に伴う役員選改では9年間にわたり重責を果した藤原勘一会長が辞任し、日野顕徳副会長が新会長に就任した。

「現在の厳しい局面を乗りきることは容易な業ではない。今や他の漁業とも深いつながりを持つ私共の漁業を発展・安定さすことが漁業全体の発展・安定をもたらすと信じ全力を尽す。安定期を迎えた感のする私共業界では、同一歩調がとれる基盤固めの為の各府県の組織強化と、生産者から経営者に頭を切りかえての経営安定がまず実行されねばならない。かん水養殖を愛する皆様の協力を得、組織強化と経営安定化を進め実を結ぶ業会にしてゆきたい。」と日野新会長は挨拶。

県漁連の使命を果すために
兵庫県漁連専務理事　青　正輔



拓水の貴重な紙面をおかりして一言御挨拶申しあげます。

去る6月16日の臨時総会並びに理事会において専務理事に選任され、今更乍ら責任の重さをひしひしと感じている処であります。

創立以来6年を経過した県漁連は、昨今の厳しい漁業情勢の波をうけて今数多くの問題を抱えておりますが、県漁連のもつ使命を果すためには、これ等諸問題を早急に解決してゆかなければなりません。

私自身、今まで経験のない職場でもありますので鋭意勉強して、県漁連全職員と共に責務を果してゆきたいと思っております。

県御当局の適切な御指導と県漁連会員各位の絶大なる御支援御鞭撻を賜わりますようお願い申し上げまして就任の御挨拶といたします。

沿整法、漁業法
水産資源保護法改正が成立

沿岸漁場整備開発法の一部を改正する法律案と漁業法及び水産資源保護法の一部を改正する法律案は、5月17日の参院農林水産委員会でそれぞれ附帯決議をつけて全会一致可決され、翌5月18日の参院本会議で可決、成立した。これで水協法一部改正、水産加工業施設資金臨時措置法、漁船損害等補償法一部改正と合わせ、今国会に提出された水産関係5法案はすべて成立した。

なお、沿整法・漁業法・水産資源保護法の一部を改正する法律は、政省令等の作業で、公布は6月20日過ぎになる見込み。

県、県漁連ではこれら関係法令の説明会を来たる7月6日に開催することとしている。

永年勤続者を表彰
県漁連

去る5月21日開催された県漁連通常総会に先立ち、永年にわたり組合運動の推進に尽力された組合役員の方々に県漁連会長より表彰が行なわれました。

表彰の栄に輝かれた方々は次のとおり。（職順不同、敬称略、（）内は漁協名）

役員永年勤続者
（25年以上勤続者）
塩谷保夫（兵庫）岩佐十郎（東二見）大西俊男（東二見）隅谷年数（妻鹿）
（15年以上勤続者）
直島重春（兵庫）宮辻留市（西二見）藤原泰蔵（高砂）紀伊巳一（伊保）中村清吉（家島）森仙次（妻鹿）古西房之助（岩見）西岡美彰（炬口）竹岡喜代治（炬口）松下昭夫（阿那賀）堀武（阿那賀）松下理一郎（阿那賀）岡野頼男（全淡水産加工）西浜武（全淡水産加工）松尾為市（全淡水産加工）

職員永年勤続者
（30年以上勤続者）
坂口煌（高砂）坂口節子（高砂）顕谷俊明（釜口）加地信次郎（淡路町）川西たかの（富島）丸市隆昭（五色町）坂口すみ子（五色町）寺川寅雄（柴山港）金子正男（柴山港）浜戸國男（香住町）倉橋孝司（香住町）浜上昌（香住町）竹中友一（香住町）中村正男（浜坂町）小西一寿（浜坂町）西墻和男（浜坂町）河合郁夫（県漁連）鶴目安次（県漁連）興津智（県漁連）
（20年以上勤続者）
直井修（神戸市）西家良子（播磨町）菅野たづえ（高砂）小林豊（坊勢）野村弘（室津）本多三郎（室津）瀬越昭子（室津）中道熙（赤穂）岡田和子（育波浦）松谷茂（丸山）川上元一（阿那賀）宮内つや子（阿那賀）藤井俊夫（津居山港）瀬崎三郎（竹野浜）田中雅（竹野浜）鴨海弘一（竹野浜）小林瑞穂（柴山港）田村元治（柴山港）吉田実（香住町）磯田勝良（香住町）西上彰信（香住町）浜本正昭（香住町）信組藤市（香住町）浜田則男（浜坂町）浜口顕（浜坂町）脇本源一（浜坂町）中村敏江（浜坂町）内田靖夫（浜坂町）石谷英明（浜坂町）鳥坪勝（出良漁連）宮崎隆夫（県漁連）中村修三郎（県漁連）戎芳蔵（県漁連）

のり検査員永年勤続者
（10年以上勤続）
大田寿夫（県漁連）

カタクチイワシの長期漁況予報

去る5月中旬に泉南郡岬町で予報会議が開催されたが、その大要は次のとおりです。

1、黒潮の概況

遠州灘沖合の冷水域（図1参照）は、昭和55年夏消滅したが、56年11月再び大型冷水域が出現して現在も持続しており、そのため本年春季室戸岬および潮岬では黒潮は離岸している。

しかし、4月上旬には室戸岬でやや接岸したが、潮岬は依然としてやや離岸している。このため黒潮分枝流は紀伊水道中央部や枯木灘南部から内海へ流入しているが、全般的に弱勢に推移している。

2、カタクチシラス

外海域の春季産卵状況は、56年頃からやや増加傾向を示しているが、57年度下半期の土佐湾東部のカタクチシラス漁は依然平年を下回る低い水準にある。昨秋宿毛湾で成魚が多獲されたことから、本年春季の外海域の産卵親魚は多いと推定されたが、土佐湾での本年春季のカタクチシラス漁をみると依然として低水準にある。これらから各水域では次のように予想される。

紀伊水道域

水道外海域での本年春季の産卵状況およびカタクチシラス漁は上向きの傾向がみられる。

しかし、現在黒潮は離岸しており、黒潮分枝流の内海への流入は弱勢に推移している。春シラス漁はマシラス主体であるがカタクチシラス漁は前年並に推移するだろう。

ただし、今後の黒潮分枝流の強弱により、外海域から水道域および内海域への補給は大きく左右されよう。

大阪湾・播磨灘

春シラスは依然低水準にあるが、水道外海域における産卵状況は良好であり同海域における春シラス漁も近年上向きの傾向がみられるものの、黒潮は前年同様離岸し、分枝流の内海への流入は弱勢であることから外海域からの補給量はあまり期待できないが、内海発生の春シラスは近年上向きの兆しがみられるので前年並みの漁は期待できよう。夏・秋のシラス漁は、年々資源量は回復の兆しがみられ本年は親魚群となる越冬群はかなり残っているので、夏季の産卵量は多いと推定され、夏シラス漁は前年同様好漁が期待出来よう。

秋シラス漁は56年以降やや増加傾向を示しているので前年並みの漁は期待出来よう。

3、中・大羽

夏・秋季の中・大羽漁は、外海域から補給される本年春季発生群は環境的には前述のとおり好条件でないのであまり期待できないが、内海の春・夏季発生群は56年以降増加傾向を示しているので前年同様好漁が期待できよう。また、前年夏、秋季の内海発生群は近年増加傾向を示し、前年夏・秋のカタクチ漁は大阪湾、播磨灘南西部で好漁を示し、また越冬群も多いとみられるので前年並の漁は期待できよう。

（水試資源部）

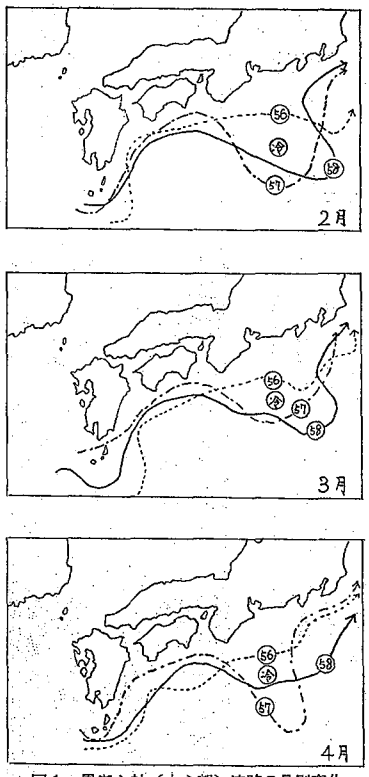


図1　黒潮主軸（中心部）流路の月別変化（水路部資料）

普及ノート

—漁獲統計からみた クルマエビ放流の効果—

クルマエビの種苗放流が始まって20年。昭和44年までは、当時の瀬戸内海栽培漁業センターから配布される種苗を中心に年間500万尾前後が放流されていた。

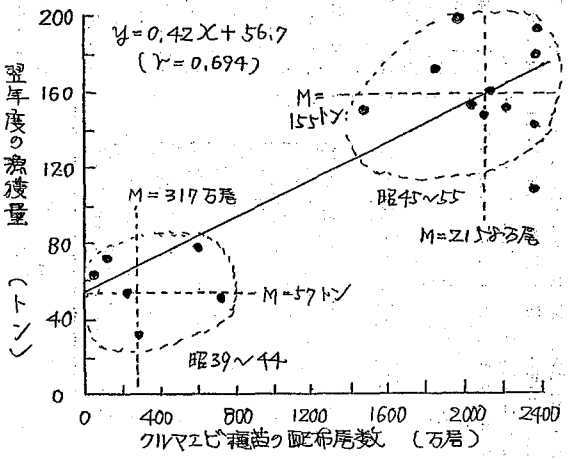
その後、昭和45年からは、県独自の種苗を生産するため、水試に種苗センターを併設。年間1200万尾の種苗を生産し、協会からの配布種苗とあわせて2000万尾前後と放流種苗も増加した。

このような種苗の配布数量とクルマエビの漁獲高との関係を農林統計がらみると、放流尾数の少なかった40年代前半では、年間の平均漁獲量は66トンであったが、放流尾数が2000万尾台となった40年代後半から56年までの年間平均漁獲量は、一三八トンと約2倍に増加している。

このように漁獲量が増加した背景には、種苗の量産化による早期放流群が年内に漁獲されるようになったことにもよるが、中間育成の条件も大きく影響していると思われる。

水試の試算によると、種苗尾数が2000万尾で中間育成歩留まり80%の場合、推定漁獲量は一五三トン、60%の場合、一一六トン、40%では、七七トンと推計されている。大量放流によって漁獲量が増えた理由には、これらの放流群が在来の漁獲量に上乗せされたとみることもできる。

（水産課普及係）



第2図　クルマエビ種苗尾数と漁獲量の関係

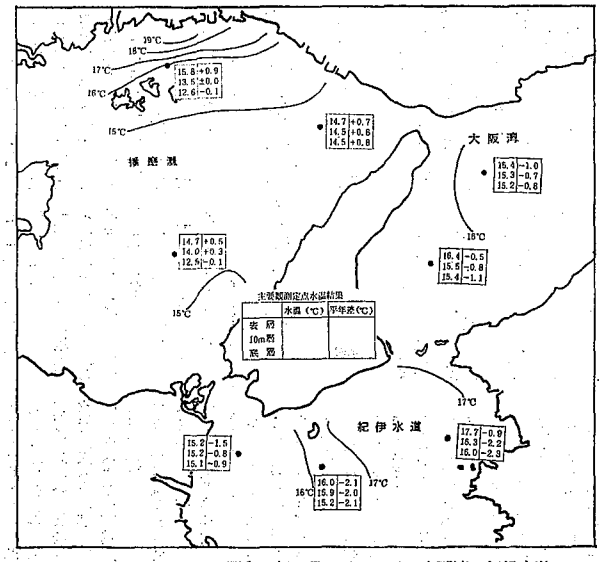
と漁況　兵庫県立水産試験場

明石海峡・播磨灘東部（明石浦）

漁種	隻・統数	主魚種	1隻日平均 漁獲量（kg）	1隻日平均 価格（円）
小型底びき網	40	メイタカレイ	7～8	4,000～5,500
		オコゼ	2～3	1,500～3,000
		アナゴ	10	1,000
		マガレイ	4～5	1,000～2,500
		ハリカメ	2～3	1,300～1,800
	5	アカエイ	20	1,500～3,000
		サナダゴ	10	300～2,000
		アナゴ	3～4	1,000
		サナダコ	4～5	1,000
一本釣	25	スズキ	4～5	3,000～4,000
	10	サワラ	10	2,000～2,500
	5	メバル	20～25	3,000～4,000
延縄	10	マコガレイ	20	2,000～4,500
文鎮漕	7	イシガレイ	10	1,000～1,500
船びき網	2	イカナゴ	3,700	110

大阪湾北西部（明石浦）

漁種	隻・統数	主魚種	1隻日平均 漁獲量（kg）	1隻日平均 価格（円）
小型底びき網	20	メイタカレイ	5～6	4,000～5,500
		オコゼ	2～3	1,500～3,000
		アナゴ	7～8	1,000
		マガレイ	4～5	1,000～2,500
		ダコ	7～8	800～1,500
		ハリカ	5～20	1,300～1,800
	15	サルエビ	10	2,500
		サルエビ（小～中）	15	800
一本釣	10	サワラ	10	2,000～2,500



表層水温水平分布図　昭和58年5月12日～13日　大阪湾、紀伊水道
昭和58年5月6日～7日　播磨灘

海況

播磨灘

5月6日から5月7日に実施した調査結果によると、表層水温は14・4℃～19・5℃の範囲にあり、4月に比べ概ね5.0℃昇温している。神合域は平年並かやや上回る程度であるが、北部海域は1.0℃～2.0℃平年を上回っている。

図からも北部沿岸において、特に昇温の著しいことがうかがえる。4月が平年より0.5℃程度低目であったことを考えると、この1ケ月の間の水温上昇は平年より大きかったともいえる。塩分は31‰～32‰の範囲にあり、平年並であった。

大阪湾

5月12日に実施した調査結果によると、表層水温は15・4～16・5℃の範囲にあり、平年に比べやや低目である。塩分は31‰～32‰の範囲であった。

紀伊水道

5月12日から13日に実施した調査結果によると、沼島より東部の表層水温は17・0℃台を示し、その西部15・0℃台で、東高西低の水温分布となっている。平年に比較すると、東部では、0.5℃程度、西部では1.0程度低目であり、紀伊水道域は全般に平年より低水温となっている。4月中旬の観測では紀伊水道域は平年より高水温であった。これは黒潮分枝流の流入によるものと考えられ、5月上旬には全般的に弱まったものと判断される。

海況

播磨灘海域4漁協、大阪湾海域1漁協及び紀伊水道海域5漁協の調査結果の概要は次のとおり。

マシラス

イカナゴ船曳網が低調に推移したため、例年5月より始まるシラス漁は本年は4月下旬より操業された。

内海のマシラスは外海域から補給されるが、本年の紀伊水道でのマイワシの卵、稚仔の出現状況は時期も多少早くその量も例年より多くて補給への好影響を期待されている。5月に入って漁況は盛況を呈している。今後は海況に左右されるが、期待はもてよう。

マダイ

沼島周辺の一本釣は前年をやや下廻る漁獲でほぼ終了した。

明石海峡周辺水域での操業はまだ低調であるが、吾智網の漁獲状況は中・下旬で体重1kg程度が主体を占め、1日1隻あたり5～kgの漁獲がある。操業が活況を呈する6月以降に期待したい。

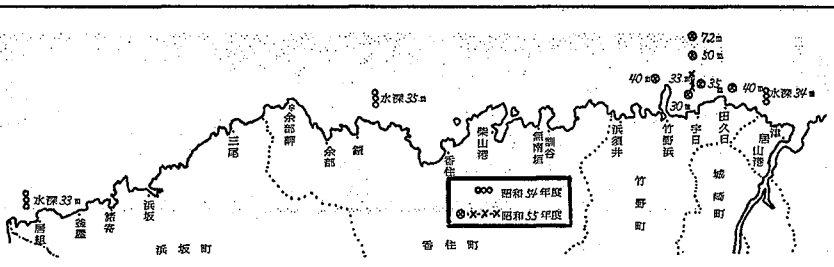
（水試資源部）

イタヤ貝の養殖
―天然採苗試験―

イタヤガイという貝を知っている人は少ないかもしれないが、ホタテガイなら多くの人が知っているであろう。また、「何の因果で貝殻こぎ習うた、かわいやのー、かわいやの―……」で始まる鳥取県の有名な民謡「貝殻節」を知らない人はなかろう。民謡「貝殻節」はまさにこのイタヤガイのことを歌ったものであり、ホタテガイと似たような形をしているために一般にはしばしば間違えられていることがある。

その生態は、九州・四国・本州・北海道南部に分布しており、雌雄同体の二枚貝である。主に浅海域（水深20～50m）の細砂底に生息し、貝の輪殻がかすかに見える程度に砂の中へ潜っている。イタヤガイはホタテガイ程大きくならないが、商品サイズの8～10cmになるまでの成長期間は1.5～2年と早い。過去に鳥取沖、石川沖、館山湾、玄海灘、日向灘で大発生がみられているが、2～3年続いて急激に魚獲がなくなるなど豊凶の差が激しい。また、ホタテガイ同様、刺身、塩焼き、バター焼き、酒むし等いろいろな調理法があり、大変おいしい。

島根県沖合から石川県沖合までの日本海中西部で発生がみられているので、兵庫県の沖合にも生息しているかどうか、幼生が流れてはいないか、もし流れているのであれば採苗が出来ないか、さらにホタテガイのように、垂下式養殖が出来ないものかと考えて、天然採苗試験、垂下養殖試験を試みたので、その結果を概説してみた。



第1図　イタヤガイ天然採苗施設設置箇所

天然採苗試験

(1) 昭和54年度

但馬地域を東西方向に三つに区分け、東部（豊岡市津居山沖）、中部（香住町余部沖）、西部（浜坂町居組沖）（図1参照）に図2（略）のような採苗施設を3月中旬に、ほぼ同水深（33～35m）に設置した。また、その採苗器として①古網、②杉の葉、③エンビ波板（60×60cm）、④十字に組んだエンビ波板（20×60cm）を用いた。その後6月中旬にそれぞれ取り上げたところ、表1の結果となり、左記のことが明らかになった。

1・表層（8～10m）や底層（25～30m）よりも、中層（13～18m）の方が採苗数が多い。

2・採苗器別に付着数をみると、杉の葉、古網、エンビ波板（十字）、エンビ波板（平板）の順になり、杉の葉の区が最も良かった。

3・採苗箇所別に付着数をみると、大きな違いはないが西部、中部、車部となり西へ行くに従って、わずかではあるが付着数が多かった

(2) 昭和55年度

前年度の試験結果により但馬地域のほぼ全域にわたってイタヤガイの幼生が流れていることが分った。この年は採苗適期と採苗水深をより一層明確に把握するため、東部海域（竹野沖）で採苗試験を実施した。図3のような採苗施設を用い、54年12月に(ア)を4箇所に、55年2月に(イ)をより深い水深の53mと73mに設置した。6月20～21日にそれぞれ一斉に取上げ、計数したところ表2の結果になり、左記のことが分った。この時の採苗器は全て古網を使用した。

1・54年同様、表・底層よりも中層の方が付着数も多く、やや殻長も大きかった。

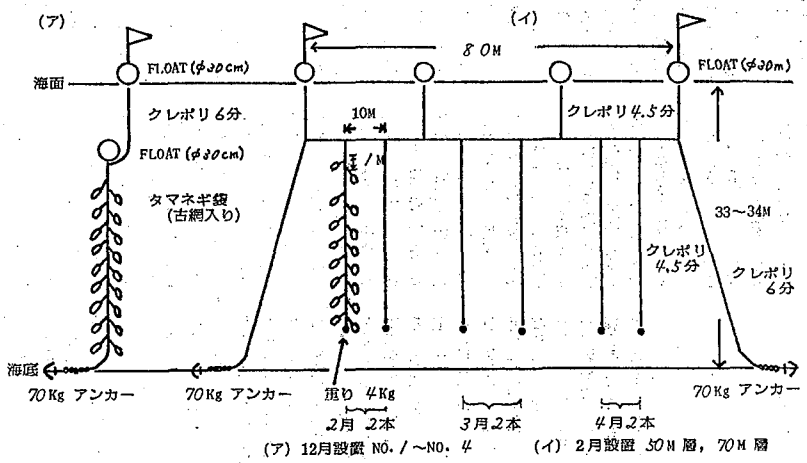
2・月別の付着数については、12月、2月、3月、4月の順で、より早い時期に採苗器を投入した方が付着数も多く成長もよい。4月に入っての採苗器の投入は付着数・成長とも極めて悪く、また3月に投入したものは、付着数はともかく成長が遅れていた。

3・水深別試験では、中・底層でも付着が確認され、数量的には中層（50m層）が最もよい結果を示した。

「垂下養殖試験」は次号掲載予定

表1　昭和54年度各地区別のイタヤガイ採苗結果

調査＼地区	津居山沖				香住沖				居組沖			
	6月13日				6月14日				6月15日			
	付着数				付着数				付着数			
	水深層	表層	中層	底層	水深層	表層	中層	底層	水深層	表層	中層	底層
第3回調査（6月）	波板（平板）	個 65	個 165	個 151	波板（平板）	個 115	個 —	個 100	波板（平板）	個 63	個 219	個 225
	波板（十字）	130	220	125	波板（十字）	250	—	213	古網	123	220	207
	古網	145	210	240	古網	170	—	208	杉の葉	87	160	230
	杉の葉	122	188	200	杉の葉	230	—	221				
	平均	116	196	179	平均	191	—	186	平均	91	200	220
	殻長範囲 12～18mm				殻長範囲 10～19mm				殻長範囲 10～20mm			



第3図　天然採苗施設図

5月の海況

鳴門海峡・紀伊水道（福良）

小型底びき網	17	ヨシエビ	2	4,500
		サルエビ(大)	5	2,000～3,000
		サルエビ(中)	4	700
		サルエビ(小)	3	350
		アカシタビラメ	12	1,000
		その他	20	800
吾智網	3	チヌ	1～2	1,610
		マダイ	6	1,540～3,790
		フカメ	1	500
		ヒラ	2	2,500
		アイナメ	1	1,620
一本釣	8	キス	3	1,980
	7	マダコ	8	1,020
	8	カサゴ	5～6	1,600
		ササワラ	4～5	1,410
	4	ササゴシ	1～2	1,500
延縄	17	ハモ	35	5,270
		アナゴ	2	600
	7	アナゴ	35	720
		マカゴ	6	915
		サゴ	4	400
	4	キス	2	2,070
		赤ベラ	5	1,300
		青ベラ	2	1,950
		マコガレイ	4	1,710
刺網	2	赤ベラ	10	1,200
		青ベラ	10	1,500
		アイナメ(大)	6	1,300
		アイナメ(中)	5	1,000
	9	ハリイカ	2	1,000
		マコガレイ	5	1,700
		その他	2～3	1,500
突棒	10	アワビ	10	2,000～3,500
		赤ナマコ	3	500
		青ナマコ	4	300
		マダコ	2	915
		ウニ	2（枚）	1,000
採貝	9	アサリ	50～70	220～400

刺網	5	キス	20	1,000
	16	マコガレイ	4	2,800
		ベラ	2	2,000
		ハリイカ	5	1,500
		その他	10	700
延縄	3	キス	10	2,700
	3	アナゴ	35	1,000
		グチ	14	500
	6	カサゴ	18	1,700
		その他	10	600
タコ壺	1	マダコ	20	1,500
一本釣	40	マダイ	3	3,300
	10	メバル	7	2,300
	40	サワラ	5	1,700
	10	カサゴ	5	1,700
	10	サバ	20	500
突棒	5	アワビ	7	2,700
潜水		アワビ	5	3,000

紀伊水道（沼島）

小型底びき網	30	マダイ(大)	10～20	3,200
		マダイ(中)		2,300
		マダイ(小)		1,800
		チヌ	5～20	900
	15	サルエビ(大)	2～4	2,000
		サルエビ(中)	1～2	800
		サルエビ(小)	100	200
		テナガダコ	10～30	250
		シャコ	10	300
一本釣	50	アジ	10～20	1,150～2,500
	10	マルアジ	5～15	1,100
		サバ	20～40	250～400
刺網	4～5	クルマエビ	1～2	8,000
		ハリイカ	2～3	1,100
		マダコ	2～3	1,100
		マコガレイ	2～3	2,000
		メイタカレイ	1	2,300
	10	サザエ	10～15	1,100
		アワビ	1～2	3,000

大阪湾北西部（淡路町）

小型底びき網	30	アナゴ	4～5	900～1,000
		サルエビ	8～10	2,000～2,500
		メイタカレイ	1～2	3,900～4,000
		ハリイカ	5～6	1,200～1,300
船びき網	31	マシラス	625～750	225～400
吾智網	2	マダイ	5～6	5,500～6,000
一本釣	50	カサゴ	1～2	2,900
		黒メバル	1～2	2,100
		アイナメ	2～3	1,800
		アイナメ(小)	1～2	1,200
		アコウ	0.5～1.0	4,500～5,000
ひき縄	20	スズキ	2～3	2,700
		セイゴ	3～4	1,900
延縄	18	アナゴ	80～100	1,100
		マコガレイ	5～10	2,600～2,800
		キス	5～8	2,300～2,400
	2	赤ベラ	10～12	980
		青ベラ	10～15	1,800
刺網	7	キス	10～15	1,800～1,900
タコ壺	3	マダコ	10～15	1,600～1,700

友ケ島水道周辺（由良漁連）

小型底びき網	5	マダイ	23	3,100
	73	メイタカレイ	1	3,200
		マコガレイ	2	2,700
		ヨシエビ	4	2,600
		ハリイカ	3	1,500
		マダコ	3	1,300
		その他	6	500

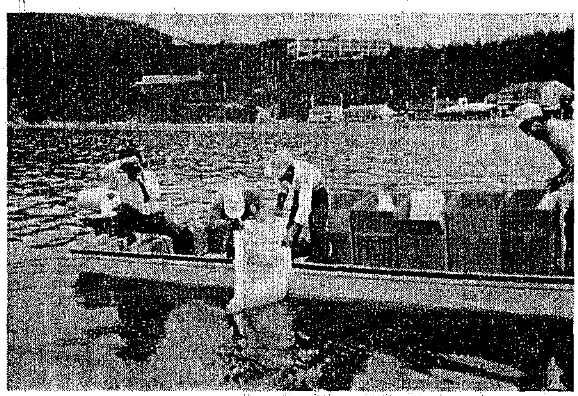
栽培漁業シーズンの幕明け

—ヒラメ種苗の放流始まる—

岩見漁業協同組合

このほど岩見漁協では栽培漁業を広域的に振興させ、沿岸漁業資源の増強を図るためヒラメ種苗5万尾を中間育成し、6月4日にこれを放流した。

このヒラメは、(社)日本栽培漁業協会より5月11日に搬入され、25日間中間育成されたもので、ふ化後60日を経過し、全長約25mmの健全な種苗である。中間育成に際しては、細かくミンチにかけたイカナゴとアミエビのすり身を与えるとともに、ブラインシュリンプの幼生を食間食として投餌し、万全をつくした育成管理を行ない、高レベルの歩留りを残した。



同漁協では青壮年グループ(岩見漁協友水会)を中心に作業をすすめ、今後ツボ網等で再採捕された幼魚(約15~20㎝)に標識(アンカータッグ)を打って、再放流を行ない拡散状況や冬期の生息域の調査を行なう。

また放流効果をあげるため、全長20㎝以下・体重一〇〇g以下の幼魚は漁場で採捕されても再放流しようという自主的な漁獲制限を進め、資源の増強に努めている。

本年度はヒラメ種苗中間育成、放流にとりくんで3年目にあたり、岩見漁協のみならず、近隣の漁協でも除々にヒラメ漁獲量の増加がみられている。なお岩見漁協の抱負として今後はさらに種々の種苗を放流するとともに、地域栽培漁業の発展にむけ同思想の啓蒙普及にも努力したいとの事である。

〝美しい県土づくりへの出発〟

兵庫県全県全土公園化構想

兵庫県では、昭和58年度から、県民すべてがうるおいとやすらぎに満ち、活力ある県土を創出するために「全県全土公園化構想」をスタートさせた。そこで基本理念としては人と自然、人と人、人と文化、人とまちとのかかわりあいの理想的な場として、人と自然と文化を融合させ、各地の特色ある個性を生かしながら、調和のとれた、さわやかでうるおいと安らぎに満ちた活力ある県土を創出しようとするものである。

この構想は、「新しいふるさとづくり」を目指しすすめてきた「緑の回廊計画」をさらに面的に拡大し、県民の「だれもが、いつでも、どこでも心身ともは健康で幸福な生活を謳歌できる環境の創出を目指し、県内の恵まれた色とりどりの自然や個性豊かな文化、さらには心地よい生活関連設施を総合的に配備、調和させるため「一億本の植樹植林運動」の展開を基軸に、花と緑に包まれた環境の醸成を図り五二〇万県民とともに壮大にして豊麗な県土をつくりあげようとするものである。

そこで今回次の要領で〈美しい県土づくりへの出発〉をテーマにシンポジウムが開催される。

■とき　昭和58年6月15日(水)午後一時~

■ところ　明石市立市民会館大ホール　明石市中崎一丁目三一一　℡078・912-1234

■シンポジウム

●テーマ

「美しい県土づくりへの出発」

■基本講演

伊藤邦輔(コマスタジアム取締役社長)

■パネルディスカッション

池坊保子(華道家)

久山　康(関西学院大学理事長・学院長)

クロード・チアリ(ギタリスト)

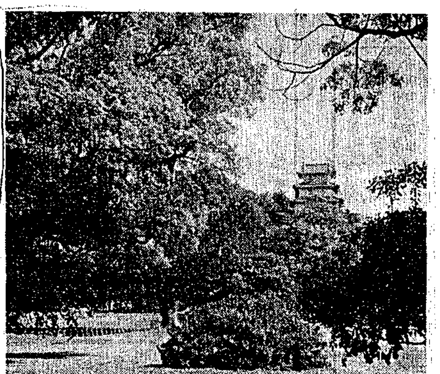
■司会

伊藤邦輔

■お問い合わせ

兵庫県保健環境部環境局環境管理課

℡078・341-7711



漁協一代(その十四)

作花　英治

専務への道五カ年(十一)

三浦氏は先づ自分に「現在の時局重大の折柄、君は単に口佐津村だけにくすぶるべきでない。県漁連という広い舞台で存分に手腕を発揮せよ。そうすることがとりもなおさず口佐津村漁業界のためにもなる」という論法で口説いた。自分も血気の頃であるからそう云われれば万更悪い気はしない。実は昭和十四年漁船保険組合の専任職員時代何が気に入られたのか知れないが、当時の農林省の佐藤公明という漁船保険課長が、小髙組合長に「作花君を保険課に呉れんか」と口説いたということがあった。さすがにその時は頭からことわったが、三浦会長の誘いには食指が動かなかったと言えばウソになる。しかし自分は「作花の身柄は永田組合長にあづけてある。組合長の意向次第」と逃げた。そこで今度は三浦会長の永田説得がはじまった。ついに根負けした永田組合長は自分の漁連転出を役員会に提案するに至った(九月七日)このことが組合長排斥派の火の手をあおる結果になった。たまたま九月末は任期満了の役員改選の時期であったので下仲の選任総代会までに各部落毎に予め配置した数の候補者を人選する組合員総集会を開くことになっていた。上計部落(筆者の居住区でもあり排斥派の居住区)ではその会合が開かれたが、その会合は排斥派がリーダーシップをとり「新しい役員の人選よりも、今日我々が百%依存している作花を漁連にほうり出そうとしている永田組合長の辞職の実現が先決だ」ということになり組名長辞職勧告委員若干名を選出するというような有様であった。そうしてその席に自分を呼んで「我々が勧告に出向く前にお前が永田氏にこの空気を伝え善処を促してくれ」と言いだすしまつであった。自分ははっきりこれを拒否したが、組合長もその翌日役場に赴いた勧告委員に「辞任の理由なし」と一蹴した。

排斥理由の一つ駅前倉庫の件はナンセンスとしても作花の漁連転出をつかれれば組合長も痛いところであるから急きょ役員会を招集し「作花転出は白紙還元、作花の理事昇格」を決定し、上計地区の候補者未定のまま役員選任総代会が開かれ(九月二十七日)候補者を選任、その際作花も理事に選任した。未定の上計地区はなお排斥派説得工作を続行人選が決まれば遡及選任ということにすることで総代会は散会した。しかし訓谷地区より組合長を前提とする理事に永田氏が再選されたことで態度を硬化した上計地区排斥派は部落の長老の説得に応ぜず組合を無政府状態に置こうと策した。これに対し俄然激怒したのは、今まで事態を静観していた村瀬宇蔵氏である。氏は理事、監事、事業委員全員を招集し、永田組合長、作花専務の互選をおこない、候補未定の上計地区配置役員は総代会権限で選任手続を了し、排斥派の首謀と目される組合員を除名に準ずる道義的制裁を加えることに結論を出してしまった(勿論除名は総会議決事項であるので、当日の決定は暫く本人の言動を見て、なお反省の色が無いときは正規議案として臨時総会を開催するという含み)かくの如く何ともあと味の悪い役員選任であったが、こうした経緯をたどり自分は当時の組合規約に規定せられた「専ら組合事務を掌理する理事」すなわち専務理事に選任せられたのである。昭和十七年十月六日登記完了、三十一才一カ月の年令であった。

註　隣接香住漁協では九月十二日西上重弐氏が円満裡に専務理事に選任されている。このことが自分の理事選任に微妙な影響を与えたことも多少はあったものと思われる。

× ×

(次号へつづく)

時のことば

サラ金規制法

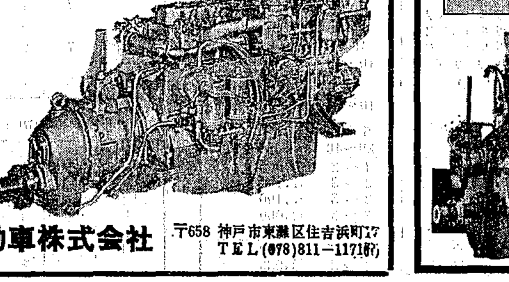
正しくは四月二十八日の衆議院本会議で可決、成立した貸金業規制法と改正出資法のことをいう。サラリーマン金融に伴うトラブル、悲劇をなくす目的で、まず金利の規制が一つの柱。しかしこの点については年四〇・〇〇四%の移行時期がぼかされ、法施行後三年間は年七三・〇%、同じく四ないし五年目に五四・七五%と、依然として高金利が続く心配もある。また事実上の自由開業から登録制となるものの、登録資格要件がゆるやかなことから悪徳業者の排除はむずかしいとの見方もある。

しかし法律違反の業者には行政が営業停止命令や登録資格の取り消しもできる。貸付条件の明示、誇大広告の禁止、契約書・領収証の発行義務付け、白紙委任状の禁止、取り行て行為や債権譲渡の規制など、悪徳商法の手口にもメスが入ることとなる。こんどの法整備はサラ金悲劇解消のためのほんの第一歩。行政面での運用面で実効を期したいが、それにしても安易にサラ金に走る消費者の〝弱い心〟が悲劇のもとにあることを忘れてはなるまい。

お詫び

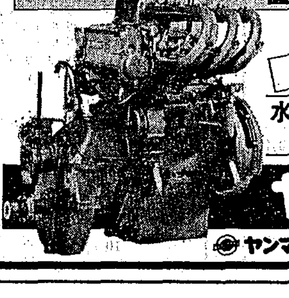
事情により6月号の発行日は16日に変更させていただきました。

いすゞ
マリンエンジン
UM06BBIB
高速への挑戦!



特長
1.小型、軽量、高出力
2.卓越した耐久性、信頼性
神戸いすゞ自動車株式会社
〒658 神戸市東灘区住吉浜町17
TEL(078)811-1171(代)

世界で活躍する技術のヤンマー
驚異的低燃費!!
直噴式内海底曳用ディーゼルエンジン



新発売
水産庁基準適合
低燃費機関
内海底曳用15馬力
3L15
(15PS/1440rpm)
ヤンマーディーゼル
ヤンマーディーゼル株式会社